



小学部研究について

小学部では「**思いを伝え合い、人とつながる授業づくり**」というテーマで研究をすすめています。研究教科は生活単元学習です。本研究テーマ、研究教科による研究は3年目になります。

来たる11月28日（水）の全体授業研究会では、小学部が公開授業を行います。公開授業研に向けて学部全体で研究を進めており、今年度は既に7回の学部研を行いました。

学部研ではまず、研究テーマについて確認をしました。「思いを伝え合い、人とつながる授業といっても、言語によるやりとりやコミュニケーションが困難な児童はどうすればよいのか？」という疑問もありましたが、これまでの小学部の授業実践を振り返る中で、言語はなくても場を介したり、道具を介したり、教師を介したりすることで思いを伝えることはできる、人とのつながりを生むことができることを確認しました。これは、新学習指導要領の「主体的・対話的で深い学び」にもつながることだと思います。



言葉はなくても思いは伝わる、
人とつながれる



さらに、学部研では中学部との合同研修を行いました。2学部とも同じ生活単元学習で研究に取り組むこと、発達という視点で小学部段階と中学部段階との連続性があることを考え、生活単元学習の授業づくりや、発達に関する内容についてともに学びました。

小学部の研究では、昨年度の成果と課題から「実態把握」に重点をおいた授業づくりに力を入れています。授業づくりの要となる実態把握を共通の視点で行い、児童の実態を共有化することが必要だと考えたからです。児童一人ひとりの「実態把握のためのシート」を作成し、実際に授業や単元を構想する際には「授業づくりのデザインシート」を活用しています（各シートについて、詳しくは次のページに掲載しています。）。

9月からはいよいよグループ別公開授業研究をスタートをする予定です。子ども達にとっても教師にとっても充実した授業となるよう研究を進めていきたいと思っています。

【参考資料】小学部研究で使用している授業づくりのツール

実態把握のためのシート

組 児童名

新版K式発達検査 (プロフィール、アセスメントシートから転記)			
全領域 (発達年齢)	姿勢・運動 (P-M) (発達年齢)	認知・適応 (C-A) (発達年齢)	言語・社会 (L-S) (発達年齢)
得意なこと (本人の強いところ、好きなことなど、指導にいかせそうな点について)			
苦手なこと (本人の弱いところなど、指導にあたっての配慮につながる点について)			

目標設定のための実態把握表 (特記事項、優先順位の高いものを箇条書きで記述)	
①「目」として「学習能力」を定める力 (基本的生活習慣、学習態度・体力・基礎的な学力、目標設定力、自己肯定感・自己有用感)	②「目」を知る力 (自分の適正や個性、障がいの理解、自己選択・自己決定、自分の能力、基本的なルール・マナー、他者の基礎となる力、自己肯定感・自己有用感)
③学習や入道よりよく関わる力 (集団活動への参加、協力・協調・協働、楽しい社会的能力・自己コントロール、素直さ・誠実さ・正直さ)	④思考・判断・問題解決する力 (うまくいく方法や手段を考える、体験や経験を活かして工夫する、困った時の対応、失敗しても立ち直る力)
⑤規範的に役割と向き合う力 (学ぶことと働くこと等に対する興味や関心、主体性・積極性・責任感・根拠・役割遂行、スケジュールや活動手順の理解と実行)	⑥豊かな人生をデザインする力 (将来の夢や目標、楽しい活動や時間等・充実した生活の創造)

担任・関係教員による観察 (特記事項を箇条書きで記述)	
興味・関心	
人間関係	
その他 (適応、意欲面、配慮事項、得意なこと、苦手なこと)	

児童の実態、強み、興味・関心、できること、得意とすること、うまくいっていること。(1～3点)

児童の課題 (1～3点)

授業づくりのデザインシート 【授業づくりの7つの視点】
小学部 () グループ 教科名 ()

単元名 ()

平成 年 月 日
指導者 ()

項 目	計画・単元前の様子	単元後の振り返り (評価・改善点)
①実態把握 ・子どもを知る。どんなことに興味があるのか。今、何をしたいのか。		
②何か、課題か? (何を教えたか?) ・自分でできることを増やしたい。身の回りの事物に興味を持てたい。自分で考える習慣を身につけさせたい。 ・自覚のつけたい力について。		
③教材探し(これでこんなことを一緒に考えたい) ・簡単なもの、身近にあるもの、(子どもが) おもしろいと思えるもの、結果が分かるもの。		
④ねらい (を明確に!) ・声に出して読める。はさみで正確に切られる。順序通りに並べられる。ストーリーに沿って読める。読んだとおりに作業ができる。文に書ける。分かったことと生きたで使える。等。		
⑤展開を工夫する ・45分(50分)で終わることができる。(20分・30分)、子どもの集中力が把握できているか否か。山場はどこか。メリハリがあるかどうか。最初の発問は何か。ねらいに迫るための発問は何か。		
⑥子どもの主体性や協調性を引き出すポイント ・子どもが自ら考え (思考や判断)、行動 (表現等) したり、強固しながら問題解決しようとしたりするのための仕掛けは何か。	主体的学びについて - 学ぶことに興味・関心を持てるか。 - 自己のキャリア形成と関連づけられる仕掛けは何か。 - 見通しを持って粘り強く取り組む仕掛けは何か。 - 学習活動を振り返り、次につなげられる仕掛けは何か。 対話的学びについて - 教師や他者との人との対話はあるか。 - 先哲の考え (本や資料やインターネット) を活用し考えを広げたり深めたりできるような仕掛けはあるか。 深い学びについて - 学んだ知識を関連付けて考えを深めたり、問題を発見して解決方法を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう仕掛けはあるか。	
⑦まとめ (を工夫する) ・見て、分かるように (原書、作図、ノート)。「おもしろかった」「まだ、やってみたい!」「〇〇することは役に立つんだ!」「分からないときは聞いてもいいんだ!」		